

## 「震災の経験生きた」 加古川の中越沖地震派遣チーム

2007/07/26 掲載 神戸新聞記事



被災地での医療活動について話す県立加古川病院の医療チーム＝加古川市役所

新潟県中越沖地震の被災地で救援活動した兵庫県立加古川病院の医療チームが兵庫に戻り、二十六日、加古川市役所で会見した。柏崎市内の避難所で、被災者の健康管理や避難所の環境整備に従事。「阪神・淡路大震災の経験が生き、被災者ニーズに応えることができた」と振り返った。

医療チームは小池隆史内科医長、山本孝子看護部次長ら五人。全員が大震災の被災経験か救援活動の実績がある。中越沖地震では新潟県の要請を受け、兵庫県立病院として唯一派遣された。

二十一-二十二日の間、各県からの医療チームと柏崎市内の避難所延べ十四カ所を巡回。被災者の診察、治療のほか、避難所の室温管理や水分確保などをスタッフに助言した。

小池医長は「一人一人に声を掛けようと思っていたが、実際は調子の悪い人の診察に追われた」と話し、合併症を起こし病院に運んだ高齢者もいたという。大震災時も神戸で医療活動をした山本次長は「神戸の経験から、被災者だけでなく、保健師の状態や避難所の環境にも目を配ることができた」と話した。